

## 「みんなの学」で 人と人のつながりをつくる

### 【新井教育長】

町内の各学校には、すでにすばらしい取組がいくつもあります。例えば、地域のかたに秩父音頭や獅子舞などの伝統文化を教わっています。農業体験や職場体験なども地域のかたにたいへんお世話になっています。こうしたふるさとを学ぶ機会をさらに発展させていきたいと思えます。

しかし、学校の先生だけでは負担が大きくなりすぎてしまうため、地域の皆さんにも多く参画してもらいたいと思っています。

町の学校教育はコミュニティ اسکूलによって支えられています。そこでふるさと教育に地域の皆さんがどのように関わっていくのか議論する

ことも、「みんなの学」を作るうえで大事です。

### 【扇原教授】

地域の中で学びあいができる仕掛けも必要だと思います。地域全体が学校になるようなイメージです。ある時は地域の人が伝統文化を教える、ある時は学校の授業を地域の人とつしよに受けることができるとおもしろいですよね。

教育長からあったように、すでに取り組まれていることも多くあると思います。それらを、子どもから大人まで、町を離れた人や海外に暮らしている人にも興味を持ってもらう人にも広げていけるといいですね。

### 【新井教育長】

そうですね。「みんなの学」は、学校教育だけでは完結しませ

ん。子どもから大人まで生涯にわたってふるさとを学ぶ機会や仕組みがあるといいと思います。

そのためには、教育委員会だけでなく役場の部局も連携することが重要です。これまでも、教育委員会とみらい創造課で連携した事業を推進していますが、今後ますます多様な課との共同作業が増えていくと予想しています。役場の連携・協力が、町全体の活性化にもつながっていくのではないのでしょうか。

### 【扇原教授】

「持続可能な社会」というのも重要な観点です。「みんなの学」によって従来の学校教育制度の隙間を埋めることで、誰も取り残さない質の高い教育環境になると思います。

さらに、「みんなの学」によって、子どもたちの町に対する愛着が増加するのではないかと考えています。「あなたは自分が住んでいる町のことが好きですか」という質問に対して、「とても好きです」と回答する割合を測定するなどして、町に対する愛着がどう変化するか追いかけるのもおもしろいですね。

こうした町に対する愛着は、地域づくりとも関連がありま

す。「みんなの学」はふるさと教育にとどまらず、地域づくりの一翼を担う、まさに「持続可能な社会」の構築に貢献する試みだといえます。

### 【新井教育長】

町への愛着という点で最後に一言。令和3年11月に教育委員会が主催した「みんなのフォトフィールドディング」は、町の魅力を知るよい機会だったと思っています。参加したかたが「皆野町の魅力をたくさん見つけられて、皆野町っていいところだなあと感じました」とメッセージを寄せてくれました。これこそ「みんなの学」の原点ではないかと思えます。

「みんなの学」のキーワードは「つなぐ」です。子ども同士、

子どもと大人といった人々とのつながりや、学びと学びのつながりなど、さまざまなつながりが生まれ、そこから豊かな教育の町を持続的に作り上げていく。こんなことにチャレンジしてまいります。



フォトフィールドディングで町の魅力を発見



秩父音頭発表会(皆野小)



農業体験(国神小)



獅子舞の学習(三沢小)

## 早稲田大学と町の連携

「ふるさと支援隊」として秩父音頭まつりの出場やカザフスタンとの交流など、町と早稲田大学はさまざまな事業で連携してきました。令和3年度には、町民のかたにインタビュー調査を行い、町での生活や町に対する思いなどの話を聞きました。今後も、新たな教育づくりのための早稲田大学との取組みを紹介していきます。



皆野中学生とカザフスタン留学生の交流